# 新任保育者および在学生の保育に対する意識調査

仲野悦子・林　秀雄・野々村千恵子

# Some Information through Questionnaire on the New Teachers' and the Students' Attitudes

**Etsuko Nakano, Hideo Hayashi, Chieko Nonomura**

**Abstract**

Following the results of the questionnaire as report. The author would like to further investigate the following topices.

1) How new teachers feel regarding their employment situation.

2) What is necessary, as perceived by new teachers, to become an excellent, talented educator.

3) What did these new teachers feel they lacked in their university education to prepare them to be successful educator.

The results of the present questionnaire showed many similarities with the one given to the students. However, there were sought differences which the author feels should be investigated further. E. g., do new theachers think university training should be longer, or do they reguire more guidance regarding play techniques, and so on.

Received Apr. 30, 1994

Key words : preparation of nursery teacher
students' attitudes
teachers' attitudes

## I　はじめに

1989年3月，25年ぶりに改訂・告示され，1990年実施された新「幼稚園教育要領」(「新要領」と略す）と続いて1991年3月改訂された新「保育所指針」(「新指針」と略す）が実施されてはや3，4年の年月が経過されようとしている。

4半世紀の長い年月の間に根付いた「旧要領」及び「旧指針」の主たる内容は，「幼児の主体性」をまず念頭においた基本的な保育姿勢の変化であり，これに対しての保育者の援助のあり方が今後の課題として上げられていた。

このような流れの中で，我々保育者養成の立場から，まず「新要領」や「新指針」について保育者の意識や保育活動(特に音楽表現)の変化の実態を調べた。(聖徳学園女子短期大学紀要19集[1]・21集[2])この結果，「新指針」の受け止め方は，ほとんどの保育者が受け入れる姿勢をもっていた。しかし，8

割近くの保育者が戸惑いを感じていたもののまだ充分に生かしきれていない試行錯誤の段階であると答えている。その内容として，一番目には計画案（月案・週案・日案）の書き方について，二番目には個々の子どもの要求を満たせられるような環境づくり，３番目には保育者主導の保育から子どもの主体性を尊重する保育があげられていた。一方受け入れた結果として保育活動（音楽表現）においては，一斉活動のものから音環境づくりを通した活動に移行しつつあることが明らかになった。

「新要領」においては，６割以上の保育者が戸惑いを感じていた。この戸惑いの程度は，保育経験の長い保育者（10年以上～20年未満）ほど大きく，戸惑いの内容としては，「環境の構成」「活動の選択」「保育者の援助」などであった。しかし戸惑いはあるものの，保育所保母と同じく，「新要領」の主旨と保育者自身の保育観とはほぼ一致していたことも明らかになった。

このように保育者の保育観と「新要領」の主旨が一致しているものの，充分にその主旨にそった保育がおこなえていないというのが現状のようであった。

そこで，本学の保母養成が保育現場と対応しているかどうか，またより質の高い保母養成をめざすために，平成４年度に卒業し10ヵ月あまり保育経験した学生および，幼稚園・保育所・施設実習を終え平成５年度の卒業予定の学生を対象にアンケート調査を試みた。

## II　調査の目的

「新要領」及び「新指針」が保育現場で受け入れられ，定着するなかで，学生の保育者観や保育者像を知ることは，今後の保母養成をすすめていくうえで大事なことと思われる。

そこで，本研究は，卒業して10ヵ月あまり保育経験した保育者および卒業予定の学生を対象に質問紙による調査をおこない，以下の点を明らかにすることを目的とした。

１）入学時に将来保育者をめざして入学してきたかどうか

２）保育者という職業の受け止め方

３）望ましい保育者像

４）大学に対して望む授業内容

## III　方　　法

１）調査対象者および調査時期

平成４年度本学を卒業し，幼稚園および保育所に就職して10ヵ月あまり保育経験をした保育者136名を対象に，質問紙による調査をおこなった。調査時期は，平成４年12月である。質問紙[3]の有効回答数は72（52.9%）であった。

そして平成５年度卒業予定の学生（１部生・111名，３部生・61名）172名を対象に質問紙による調査をおこなった。調査時期は平成５年１月である。

２）質問の内容

卒業生および在学生に対する質問の内容は，①聖徳学園女子短期大学に入学した時，将来保育者をめざしていたか，②希望する職種（幼稚園教諭・保育所保母・施設保母），③保育者という職業感，④

望ましい保育者像，⑤短大で習得した知識・技能の対応状況，である。

なおデータの分析には，SPSS JAPAN 社の SPSS/PC＋を用いた。

## Ⅳ　結果及び考察

1）保育職就職希望の有無

本学幼児教育学科に在籍する学生（Ⅰ部生平成4年度入学，Ⅲ部生平成3年度入学）172名の9割以上が，保育者を目指して入学してきていた。「強く保育者を希望していた」者が47.1%，「できれば保育者になりたいと思っていた」者が44.2%であった（表1－2参照）。

保育者を希望していた者のなかで，幼稚園教諭希望が34.3%，保育所保母が45.3%，施設保母が9.9%となっており，9割の学生が幼児教育に携わることを目指していた（表2－2）。

このことは，平成4年度に本学幼児教育学科を卒業した保育者に対する調査でも同様の傾向がみられた（表1－1，2－1）。

表1-1　現在の勤務先と短大入学時の希望（新任保育者）

| | 強く希望した | できればなりたいと思った | 他の職業につく予定だった | 就職の希望無し |
|---|---|---|---|---|
| 公立幼稚園 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 私立幼稚園 | 11 | 6 | 1 | 0 |
| 公立保育所 | 14 | 8 | 2 | 0 |
| 私立保育所 | 13 | 11 | 3 | 0 |
| 計 | 40　56.3% | 25　35.2% | 6　8.5% | 0　0.0% |

表1-2　入学時の保育者希望（在学生）

| | | |
|---|---|---|
| 強く希望していた | 81人 | 47.1% |
| できればなりたいと思っていた | 76 | 44.2 |
| 他の職業につくつもりだった | 14 | 8.1 |
| なんの職業にも就くつもりはなかった | 1 | 0.6 |

表2-1　入学時に希望していた職種（新任保育者）

| | 幼稚園教諭 | 保育所保母 | 施設保母 |
|---|---|---|---|
| 公立幼稚園 | 2 | 0 | 0 |
| 私立幼稚園 | 12 | 5 | 0 |
| 公立保育所 | 3 | 17 | 1 |
| 私立保育所 | 7 | 15 | 2 |
| 計 | 24　37.5% | 37　57.8% | 3　4.7% |

表2-2　入学時の希望職種（在学生）

| | | |
|---|---|---|
| 幼稚園教諭 | 59人 | 34.3% |
| 保育所保母 | 78 | 45.3 |
| 施設保母 | 17 | 9.9 |

日本私立短期大学協会保育科研究委員会による調査結果（保育職希望者77.2%[4]）と比較すると本学幼児教育学科の学生の入学時の保育職希望者の割合は高いと言える。

2）保育者として必要なこと

表3は，保育者にとって必要と思われることがらについて，その重要さの程度をたずねた結果をまとめたものである。各項目についてその重要度を「ほとんど重要でない」1点，「あまり重要でない」2点，「どちらともいえない」3点，「かなり重要」4点，「非常に重要」5点とし，その平均得点値を新任保育者，在学生別に示してある（以下，表4，5，6も同様）。

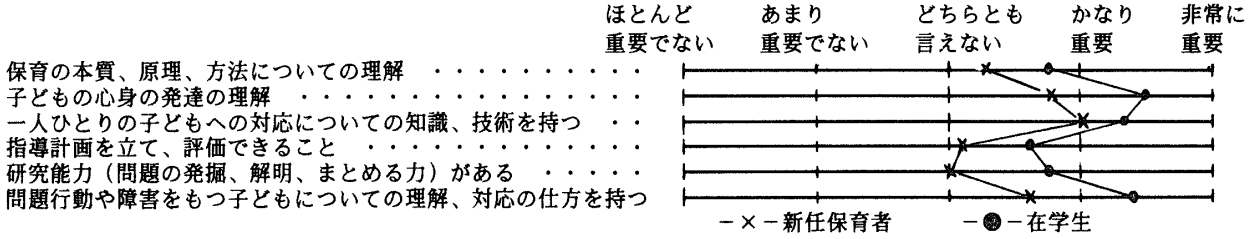
どの項目についても新任保育者の得点よりも在学生の得点の方が高くなっている。しかし，項目間の得点傾向は両者とも共通していると言える。

両者ともに得点の高い項目は，「子どもの心身の発達の理解」（新任保育者3.86，在学生4.50），「問題行動や障害を持つ子どもについての理解と，それに応じた対応ができるための知識，技術を持つ」（新任保育者3.63，在学生4.44），「一人ひとりの子どもに対する対応ができるための知識，技術を持つ」（新任保育者4.04，在学生4.37）となっている。

一方，低い得点項目は「指導計画を立てその評価ができること」（新任保育者3.11，在学生3.69），「研究能力（問題の発掘，解明，まとめの力）があること」（新任保育者3.04，在学生3.84）であった。

在学生は，どの項目とも重要だと考えているのに対して，保育職を10ヶ月ではあるが経験している新任保育者は「指導計画」「研究能力」についてはその重要度を低く評価している傾向にあると言える。

表3　保育者として必要とされるもの

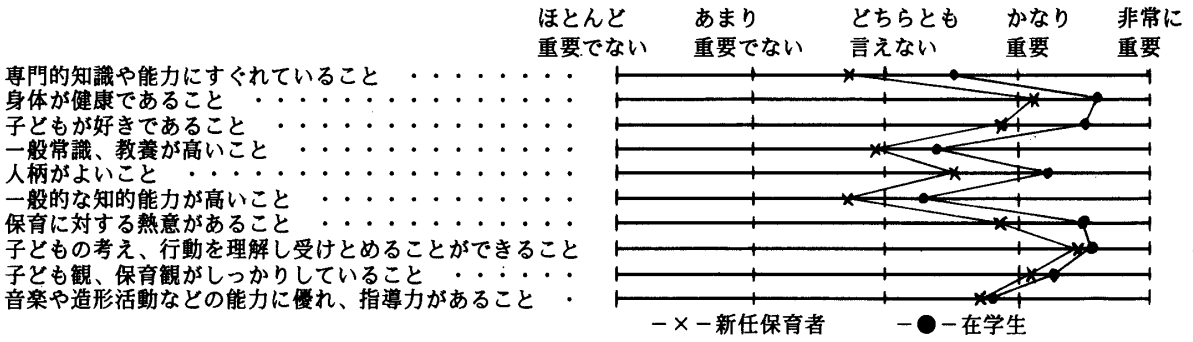



3）望ましい保育者像

次に，望ましい保育者として必要とされることがらがそれぞれどの程度重要と考えられるかを尋ねた。表4は，その結果をまとめたものである。

どの項目についても，在学生が新任保育者よりも得点が高くなっている。また，項目間の得点傾向は，両者ともに同じようであった。高得点項目と低得点項目間での得点差が大きくなっている。新任保育者の高得点項目は，「子どもの考え，行動を理解し受けとめることができる」（4.52），「体が健康であること」（4.18），「子ども観，保育観がしっかりしていること」（4.13）であるのに対して，低得点項目は「一般的な知的能力が高いこと」（2.75），「専門的知識や能力に優れていること」（2.77），「一般常識，教養が高いこと」（2.97）となっている。このことは，保育者としては，まず「子どもの気持ちが理解でき，子どもと一緒に動き回れる健康な体が大切」と考えていると思われる。

表4　望ましい保育者像として求められるもの



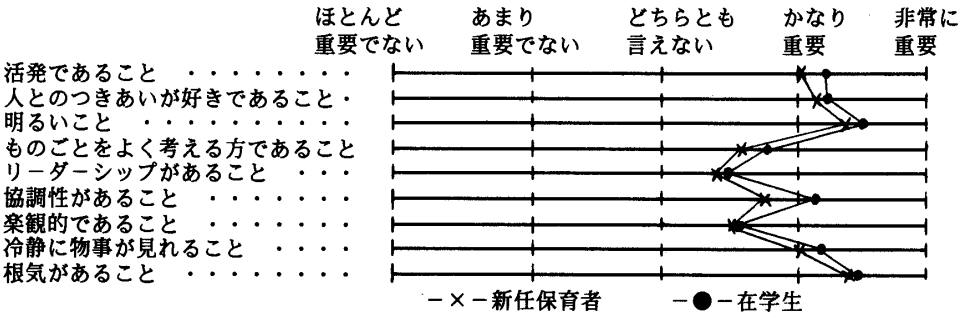

4）保育者の人柄

保育者の人柄として重要な要素と思われる項目の重要度を尋ねた結果が表5である。

前述の「保育者として必要なもの」「望ましい保育者像」の結果と同様，在学生がどの項目についても新任保育者よりも高い得点であった。しかし，在学生と新任保育者間の得点差は，どの項目ともに少なくなっている。項目間の得点傾向は，両者ともに同じようであった。また，項目間での得点差は少なく，得点のばらつきが少なく，どの項目ともに高い得点傾向にある。

ここで取り上げた項目はどれも保育者の人柄として大切なものばかりと考えられることを示している。そのなかでも特に高い得点を上げた項目は，「根気があること」（新任保育者4.50，在学生4.54），「明るいこと」（新任保育者4.42，在学生4.51）であった。

表5　保育者の人柄に求められるもの




5）保育の実際に必要なもの

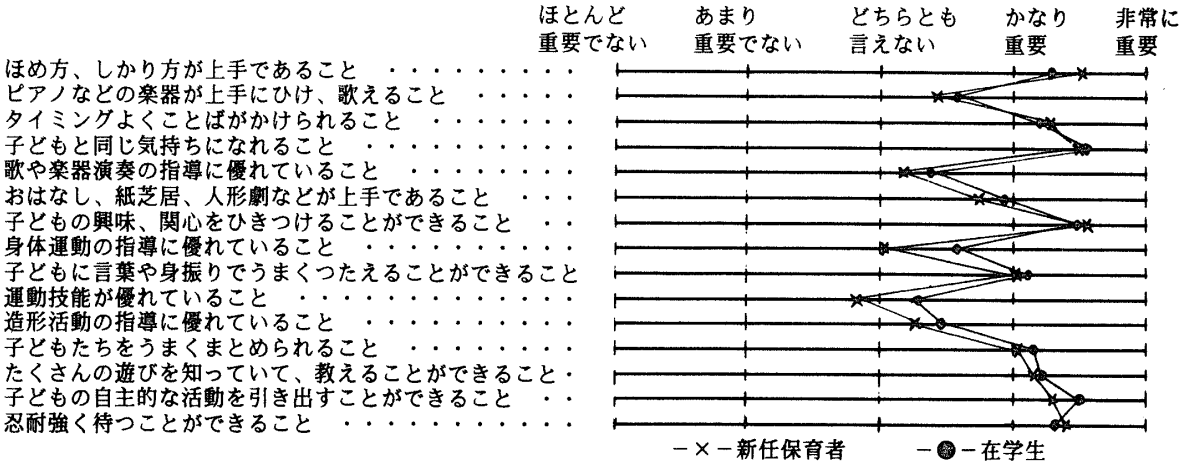
実際に保育するうえで保育者が必要とすることがらの重要さを尋ねた。

15項目中4項目では，新任保育者の方が得点が高くなった。これは前述の2），3），4）の結果と異なる点である。新任保育者の得点が在学生の得点を上回った項目は，「ほめ方，しかり方が上手であること」（新任保育者4.51，在学生4.37），「タイミングよくことばがかけられること」（新任保育者4.30，在学生4.27），「子どもの興味関心をひきつけることができること」（新任保育者4.62，在学生4.51），「忍耐強く待つことができること」（新任保育者4.42，在学生4.32）であった。また，両者に共通して高得点項目グループと低得点項目グループに区分できる。高得点項目は「子どもと同じ気持ちになれるこ

と」「子どもの自主的な活動を引き出すことができること」「子どもの興味関心を引き付けることができること」「忍耐強く待つことができること」などであり，低得点項目は「運動技能が優れていること」「身体運動の指導に優れていること」「歌や楽器演奏の指導に優れていること」などである。

高得点項目に共通する点は，新しい保育観による保育者の援助姿勢を示すものであり，低得点項目に共通するのは，子どもの能力，技能を育てる指導的な保育者の姿勢を含んでいるように思われる。

表6　保育の実際に必要なもの




6）短大での学習が保育の実際に対応できるのか

短大時代だけの学習で，実際の保育を行ううえで困難さがあるのかどうか，あるとすればどの様な面かを尋ねた。

在学生では，約半数が不安に思っているのに対し，新任保育者では8割弱が対応できると答えている（表7）。

そこで，「対応できない」と感じている者が，具体的にはどのような点をより学習しておくべきだと考えているかをたずねた。表8に在学生についての結果を示した。「対応できない」と答えた学生72名中，半数以上があげた項目は，「ことばかけなどの指導」(59.7%)，「手遊びなどの指導」(56.9%)，「指導計画の作成」(52.8%) であった。一方，少数の学生があげた項目は，「保育行政」(8.3%)，「一般教養，社会常識」(11.1%) であった。このような結果からは，在学生では実習での経験から必要と感じた面と，実習では特に問題とならなかった面が，それぞれ回答の頻度に反映されたとも考えられる。

表7　短大での学習で保育者として対応できるか

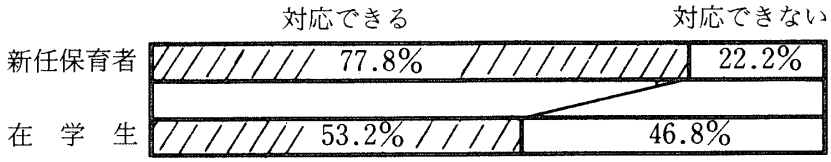
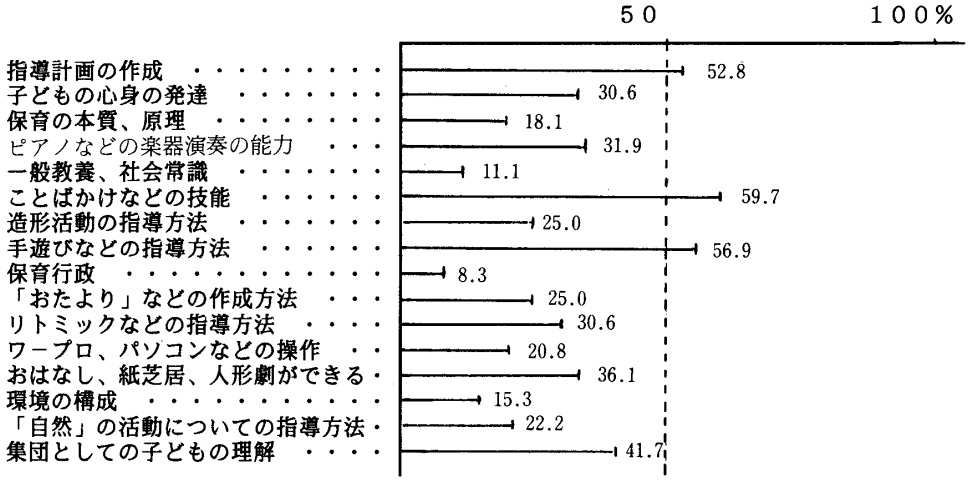


表8　より勉強すべきと思うこと（在学生）




新任保育者で不安を感じたと回答した者は，16人で2割強であるが，「ことばかけなどの指導」「手遊びなどの指導」は16人中9人（56.3%）と最も多かった。これらの項目は，在学生と同じく高い頻度であった。

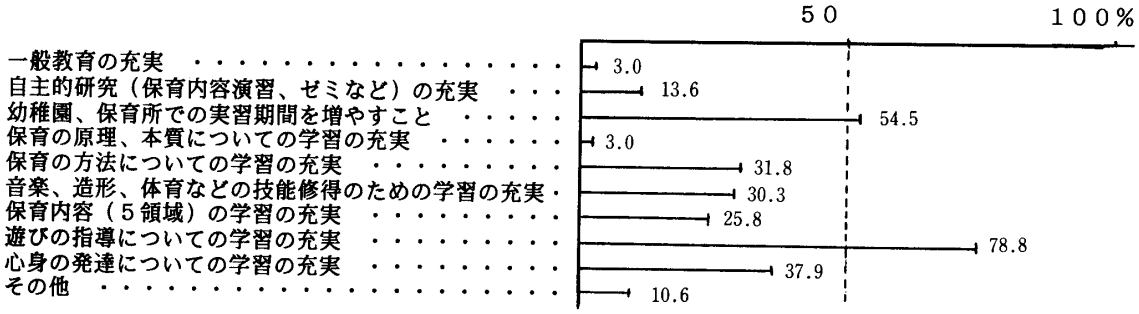
7）保育者養成に望むこと

次に，新任保育者が自分自身の10ヶ月の保育経験から，短大での保育者養成に望むものは何かを尋ねた。

多くの新任保育者が要請している内容は，「遊び指導についての学習の充実」(78.8%)，「幼稚園，保育所での実習期間を増やすこと」(54.5%) であった。

本学では，「遊びの指導」を主とした授業科目は設けられていない。しかし，遊び指導の重要性については，学内外を問わず指摘されているところであり教育課程の検討課題と言える。また，実習期間を増やすことは，学生への負担増となること，あるいは現行の2年制の保育者養成ではなかなか難しいもののおおいに今後の検討課題と言える。

表9　保育者養成に求めるもの（新任保育者）



## V　おわりに

今回の調査研究の主な目的は，①入学時に保育者を目ざしているものはどれくらいいるのか，②これから保育を担っていく新任保育者，あるいは卒業目前の学生が，保育職をどのように感じているのか，③そういった若い人たちが考えている望ましい保育者像はどのようなものか，さらに④そのような人が保母養成に望むものはなにかを知ることであり，これからの保母養成のあり方を探る手がかりを得ることであった。

本学幼児教育学科の学生のほとんどが保育者を目ざして入学していると言える。これは他の養成校に比べ高いと言える。また，入学時に他の職業を希望していた者でも保育者になっている者もおり，就職先があればほとんどの学生が保育者になることを望んでいるともいえる。

次に，保育者として人柄が特に大切と考えている者が多い。その中でも，「根気がある」「明るい」といった要素は特に保育者として重要な要素と考えているようだ。

学生，新任保育者が考える「望ましい保育者像」は，「子どもの考え，行動がよく理解でき」「保育に対する熱意が強く」「それを支える健康な身体を持ち」「子供が好き」であることといえる。

そして，実際の保育の中で，短大時代にもっと身につけておくべきであったことがらとして，新任保育者は「実習をもっとしておくべき」であり，「遊び指導」をもっと学んでおきたかったとしている。在学生では，やはり「遊び指導」をあげ，さらに「ことばかけ」「指導計画の作成」などの学習不足をあげている。

また，新任保育者の多くが短大での学習で保育の実際に何とか対応できていると感じていること。さらに保育者の保育姿勢の面では，新しい保育観，子ども観に沿った保育者の態度に関わる項目をより重要と考えていることなどを考え合わせると，おおむね現行の短大での教育課程が保育の実際に対応できているともいえる。

しかし，「実習期間の増加」「遊び指導の充実」といった指摘には，おおいに耳を傾けることが必要と思われる。

今回の調査では，新任保育者，卒業前の学生だけを対象とした調査であり，今後の保母養成のあり方を考えるうえでは，さらにベテランの保育者，あるいは園長さらには父母らの声にも耳を傾ける必要があると考える。これらについては今後の課題として早急に調査研究に取り組む予定である。

最後に，今回の調査に協力して頂いた卒業生，本学学生にお礼を申し上げる。

### 注

1）仲野悦子他「保育所保育指針の検討」『聖徳学園女子短期大学紀要　第19集』1993　PP.65－85

2）林秀雄他「幼稚園教育要領改訂にともなう保育者の意識」『聖徳学園女子短期大学紀要　第21集』1993　PP.41－53

3）質問紙の作成に当たっては，日本私立短期大学協会保育科研究委員会「保育科系短大学生意識調査」(1993年11月報告書）に使用された質問事項および名古屋市立保育短期大学附属幼児教育研究所の『保育者に関する調査』(1987年）の質問項目を参考に作成した。

4）日本私立短期大学協会保育科研究委員会『保育科系短大学生意識調査報告書』1993年　PP.12－13

## 資料１　新任保育者に対するアンケート

以下の質問にお答え下さい。お答えは、該当する項目の番号（または該当するところ）に○印をつけて下さい。

１．あなたの勤務されているのは、どちらでしょうか。
　１．公立幼稚園　　２．私立幼稚園　　３．公立保育所　　４．私立保育所

２．あなたは、聖徳学園女子短期大学に入学する時、将来保育者となることを希望していましたか。
　１．強く希望していた　　２．できればなりたいと思っていた
　３．他の職業に就くつもりだった　　４．何の職業にも就くつもりはなかった

３．質問２で、１．強く希望していた、２．できればなりたいと思っていた、と答えられた方のみにお聞きします。あなたの希望は幼稚園教諭でしたか、保母でしたか。
　１．幼稚園教諭　　２．保育所保母　　３．施設保母

４．保育者となって１０カ月が経過した現時点で、保育者という職業をどのように思いますか。該当するものを３つ選んで○印をつけて下さい。
　１．重要だが、社会的にあまり認められていない
　２．向上心、研究心がなければつとまらない
　３．女性にふさわしい職業
　４．しっかりした人生観、教育観がなければできない
　５．子どもが好きでなければつとまらない
　６．重要で社会的にも認められている
　７．対人関係が難しい職業
　８．高度な専門的技術が要求される
　９．心身とも健康でなければつとまらない
　１０．地味であまりめだたない

５．保育者にとって必要だと思われる次のようなことがらは、それぞれどの程度重要だとお考えですか。おのおのについて、重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １．保育の本質、原理方法についての十分な理解があること | | | | | |
| ２．子どもの心身の発達の理解があること | | | | | |
| ３．一人ひとりの子どもに対した対応ができるための知識や技術を持つこと | | | | | |
| ４．保育の指導計画を立て、その評価ができること | | | | | |
| ５．研究能力（問題の発掘、解明、まとめの力）があること | | | | | |
| ６．問題行動や障害を持つ子どもについての理解と、それに応じた対応ができるための知識や技術を持っていること | | | | | |

６．望ましい保育者像として、次のそれぞれの項目はどの程度重要だと思われますか。重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| １．専門的知識や能力にすぐれていること | | | | | |
| ２．身体が健康であること | | | | | |
| ３．子どもが好きであること | | | | | |
| ４．一般常識、教養が高いこと | | | | | |
| ５．人柄がよいこと | | | | | |
| ６．一般的な知的能力が高いこと | | | | | |
| ７．保育に対する熱意があること | | | | | |
| ８．子どもの考え、行動を理解し受けとめることができること | | | | | |
| ９．子ども観、保育観がしっかりしていること | | | | | |
| １０．音楽や造形活動などの能力にすぐれ、指導力があること | | | | | |

7．保育者としての人柄を考えるとき、次のようなことがらはどの程度重要だとお考えですか、それぞれのことがらについて該当する程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．活発であること | | | | | |
| 2．人とのつきあいが好きであること | | | | | |
| 3．明るいこと | | | | | |
| 4．ものごとをよく考える方であること | | | | | |
| 5．リーダーシップがあること | | | | | |
| 6．協調性があること | | | | | |
| 7．楽観的であること | | | | | |
| 8．冷静に物事が見れること | | | | | |
| 9．根気があること | | | | | |

8．実際に保育するとき、保育者にとって次のようなことがらはどの程度重要だとお考えですか。おのおのについて重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．ほめ方、しかり方が上手であること | | | | | |
| 2．ピアノなどの楽器が上手にひけ、歌えること | | | | | |
| 3．タイミングよくことばがかけられること | | | | | |
| 4．子どもと同じ気持ちになれること（理解できること） | | | | | |
| 5．歌や楽器演奏の指導に優れていること | | | | | |
| 6．おはなし、紙芝居、人形劇などが上手であること | | | | | |
| 7．子どもの興味、関心を引きつけることができること | | | | | |
| 8．運動の指導に優れていること | | | | | |
| 9．子どもに言葉や身ぶりをうまく伝えることができること | | | | | |
| 10．運動技能が優れていること | | | | | |
| 11．造形活動の指導に優れていること | | | | | |
| 12．子ども達をうまくまとめられること | | | | | |
| 13．たくさんの遊びを知っていて、子ども達に教えることができること | | | | | |
| 14．子どもの自主的な活動を引き出すことができること | | | | | |
| 15．忍耐強く待つことができること | | | | | |

9．短大時代までに修得した知識、技能で実際の保育には十分対応できていますか。

1．十分対応できている　　2．なんとか対応できている　　3．対応できない

10．質問9で、3．対応できない、とお答えの方のみにお聞きします。具体的にどのような勉強を学生時代にもっとしておけばよかったと思いますか。該当するものすべてに○印をつけて下さい。

1．指導計画の作成について
2．子どもの心身の発達について理解
3．保育の本質、原理についての理解
4．ピアノなど器楽演奏の能力
5．一般教養、社会常識について
6．ことばがけなどの技能の修得
7．造形活動の指導方法
8．手遊びなどの指導方法
9．保育の行政的な面の知識
10．親への「おたより」などの作成の仕方
11．リトミックなどの指導方法
12．ワープロ、パソコンなどの操作について
13．おはなし、紙芝居、人形劇が上手にできること
14．環境の構成について
15．「自然」の活動についての指導方法
16．集団としての子どもの理解
17．その他（　　）

１１．これからの保育者養成のためには、短大でどのようなことを重視した教育が必要と思われますか。必要だと思われるものを３つ選んで下さい。
　１．一般教育の充実
　２．自主的研究（保育内容演習、ゼミなど）の充実
　３．保育所、幼稚園での実習期間を増やすこと
　４．保育の原理、本質についての学習の充実
　５．保育の方法についての学習の充実
　６．音楽、造形、体育などの技能修得のための学習の充実
　７．保育内容（５領域）の学習の充実
　８．遊びの指導についての学習の充実
　９．心身の発達についての学習の充実
　１０．その他（　　）

なお、３つを選ばれた理由も簡単にで結構ですからお書き下さい。

１２．最後に、先生の近況をお知らせ下さい。また、就職して１０カ月の感想をお書き下さい。

＃ご協力ありがとうございました。このアンケートの分析結果は、平成６年の５月ぐらいにお知らせできる予定です。

聖徳学園女子短期大学幼児教育学科
仲野　悦子
野々村　千恵子
林　秀雄

## 資料2　在学生に対するアンケート

以下の質問に答えてください。答えは、該当する項目の番号（または該当するところ）に○印をつけて下さい。

1．あなたは、本学に入学するとき、将来保育者となることを希望していましたか。
　1．強く希望していた　　2．できればなりたいと思っていた
　3．保育者以外の職業に就くつもりだった　　4．どこにも就職するつもりはなかった

2．質問1で、1．強く希望していた、2．できればなりたいと思っていた、と答えた方だけに聞きます。
あなたの希望は、幼稚園教諭でしたか保母でしたか。
　1．幼稚園教諭　　2．保育所保母　　3．施設保母

#ふたたび全員に聞きます。学内での学習および学外での実習の経験をふまえて、以下の質問に答えて下さい。
（なお、以下保育者とは、幼稚園教諭、保育所保母をさします）

3．保育者にとって必要だと思われる次のようなことがらは、それぞれどの程度重要だと思いますか。おのおのについて重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．保育の本質、原理、方法についての十分な理解があること | | | | | |
| 2．子どもの心身の発達の理解があること | | | | | |
| 3．一人ひとりの子どもに対する対応ができるための知識や技術を持つこと | | | | | |
| 4．保育の指導計画をたて、その評価ができること | | | | | |
| 5．研究能力（問題の発掘、解明、まとめの力）があること | | | | | |
| 6．問題行動や障害を持つ子どもについての理解と、それに応じた対応ができるための知識や技術を持っていること | | | | | |

4．望ましい保育者像として、次のそれぞれの項目はどの程度重要だと思いますか、重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．専門的知識や能力に優れていること | | | | | |
| 2．身体が健康であること | | | | | |
| 3．子どもが好きであること | | | | | |
| 4．一般常識、教養が高いこと | | | | | |
| 5．人柄がよいこと | | | | | |
| 6．一般的な知的能力が高いこと | | | | | |
| 7．保育に対する熱意があること | | | | | |
| 8．子どもの考え、行動を理解し受け止めることができること | | | | | |
| 9．子ども観、保育観がしっかりしていること | | | | | |
| 10．音楽や造形活動などの能力にすぐれ、指導力があること | | | | | |

5．保育者としての人柄を考えるとき、次のようなことがらはどの程度重要だと考えますか、それぞれのことがらについて該当する程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．活発であること | | | | | |
| 2．人とのつきあいが好きであること | | | | | |
| 3．明るいこと | | | | | |
| 4．ものごとをよく考える方であること | | | | | |
| 5．リーダーシップがあること | | | | | |
| 6．協調性があること | | | | | |
| 7．楽観的であること | | | | | |
| 8．冷静にものごとが見れること | | | | | |
| 9．根気があること | | | | | |

6．実際に保育するとき、保育者にとって次のようなことがらはどの程度重要だと考えますか、おのおのについて重要だと思われる程度を表しているところに○印をつけて下さい。

| | ほとんど重要でない | あまり重要でない | どちらともいえない | かなり重要 | 非常に重要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1．ほめ方、叱り方が上手であること | | | | | |
| 2．ピアノなどの楽器が上手にひけ、歌えること | | | | | |
| 3．タイミングよくことばがかけられること | | | | | |
| 4．子どもと同じ気持ちになれること（理解できること） | | | | | |
| 5．歌や楽器演奏の指導に優れていること | | | | | |
| 6．おはなし、紙芝居、人形劇などが上手であること | | | | | |
| 7．子どもの興味、関心をひきつけることができること | | | | | |
| 8．身体運動の指導に優れていること | | | | | |
| 9．子どもに言葉や身振りでうまくつたえることができること | | | | | |
| 10．運動技能が優れていること | | | | | |
| 11．造形活動の指導に優れていること | | | | | |
| 12．子ども達をうまくまとめられること | | | | | |
| 13．たくさんの遊びを知っていて、教えることができること | | | | | |
| 14．子どもの自主的な活動を引き出すことができること | | | | | |
| 15．忍耐強く待つことができること | | | | | |

7．短大で習得した知識、技能で実習に十分対応できると思いますか。
1．十分対応できる　2．なんとか対応できる　3．あまり対応できない　4．対応できない

8．質問7で、3．あまり対応できない、4．対応できない、と答えた方のみに聞きます。
具体的にどのような勉強をもっとしておけばよかったと思いますか。該当するものすべてに○印をつけて下さい。
1．指導計画の作成について
2．子どもの心身の発達についての理解
3．保育の本質、原理についての理解
4．ピアノなど楽器演奏の能力
5．一般教養、社会常識について
6．ことばがけなどの技能の習得
7．造形活動の指導方法
8．手遊びなどの指導方法
9．保育の行政的な面の知識
10．親への「おたより」などの作成の仕方
11．リトミックなどの指導方法
12．ワープロ、パソコンなどの操作について
13．おはなし、紙芝居、人形劇が上手にできること
14．環境の構成について
15．「自然」の活動についての指導方法
16．集団としての子どもの理解
17．その他（　　）

ご協力有難うございました